

ハローキャリアワーク通信



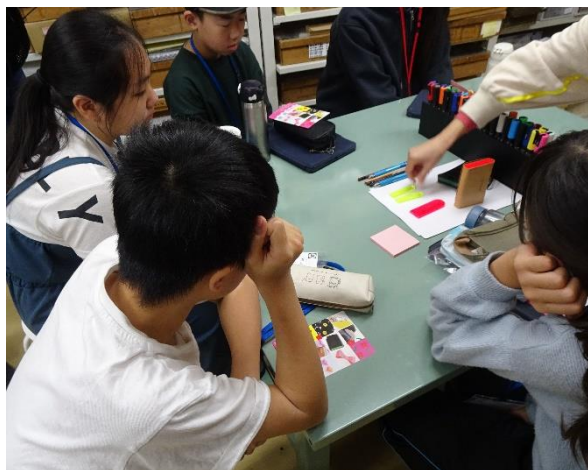
11月24日に、株式会社友成工芸から依頼のあった「コロナ禍で使用した『アクリル板』をアップサイクルして、素敵な製品を作りませんか？」のハローキャリアワークの2回目が友成工芸の工房で行われました。今回は、デザイナーの関悠美氏、商品の依頼者のASOMANABO うさぎクラフト手芸クラブ講師の大澤麻衣氏が講師となり、子どもたちに、デザイナーの仕事や作品の作り方、ワークショップのコンセプトをクライアント（商品の発注者）との関係性を交えて説明を行っていただきました。また、今回はJ:COMの取材も入り、子どもたちがインタビューを受ける場面もありました。

初めに自己紹介を兼ねて、関氏が企業等から依頼を受けて作成した作品や自らの考えで作成した作品の紹介がありました。特にデザイナーについて詳しく話され、今回のクライアントとして、ASOMANABO 大澤氏のコンセプトを受け、取り組むことになりました。その内容は、小学校低学年を対象に工作キットを作成し、商品として販売すること、価格は、卸値が1,000円で、販売価格は3,000円を想定しているとのことでした。そして、デザインは、関氏自身が作成したブローチや髪飾り、企業から依頼されたキーホルダーなど示され、商品としての出来栄や、クライアントからの依頼を受け入れることの大切さなど話されました。また、作成に当たっては、工場（職人さん）の技によって商品が左右されることも実物を



提示しながら話されました。

いよいよ子どもたちの企画になりました。説明を受け、そのことに応える考えを紙にまとめることになりました。子どもの中には、考え始めてすぐに紙に絵を交えて進める子も見られましたが、なかなか考えがまとまらず、筆が進まない状態の子もいました。時折、関氏が、ご自身が行ってきたことを話したり、具体物として、小さめの壁掛け時計を見せ、文字盤などに工夫ができることを示したりしていました。特に、ターゲットにしている小学校低学年の子どもが手に取って楽しめる、やってみたくなるものを考えてほしい。自分が好きなものを考えて、それが、対象の子ども





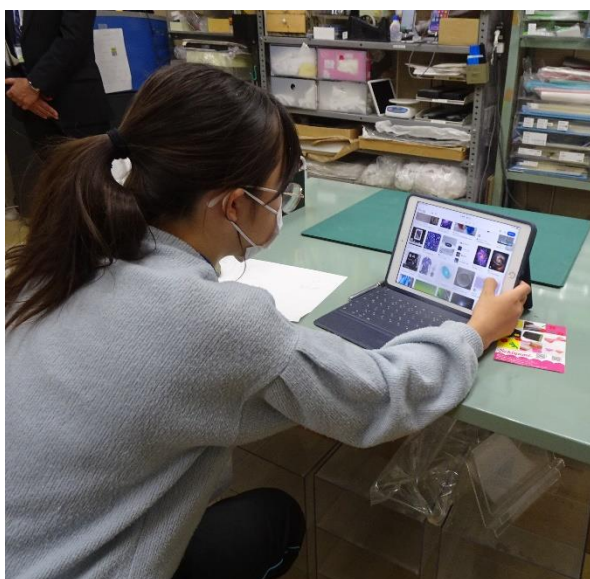
たちが楽しめるかを深く考えてほしいと話されていました。作業に集中して取り組む中、タブレットで検索して、具体物を探す子も出てきました。時間が過ぎる中、集中して取りくむ姿から、「友成工芸の社員」のように見えてきました。いよいよ、時間が来て、全員で自分の案についてプレゼンすることになりました。

まず、一人目は、「スマホスタンド」でした。縦にも横にも置けるもので、作業も簡単と説明していました。次は、大きさを少し少し違えた正方形の板を数枚作り、中心に穴を空

け、串刺し状態にしてオブジェのようにできるものを提案しました。細かくサイズを決めた1つの設計図のようでした。三人目は、ペンケースで、その側面にそのケースを手にした子が、絵や色を付けることができるものでした。見本は、水槽のように中には、魚が泳いでいる企画書を作成していました。また、幾何学模様の側面も作っていました。四人目の子は、サバンナにいるシマウマを描き、それをパズルにするという企画を考えました。手に取って試したくなるものと考えてようです。最後の子は、月と猫をモチーフにした「キーホルダー」

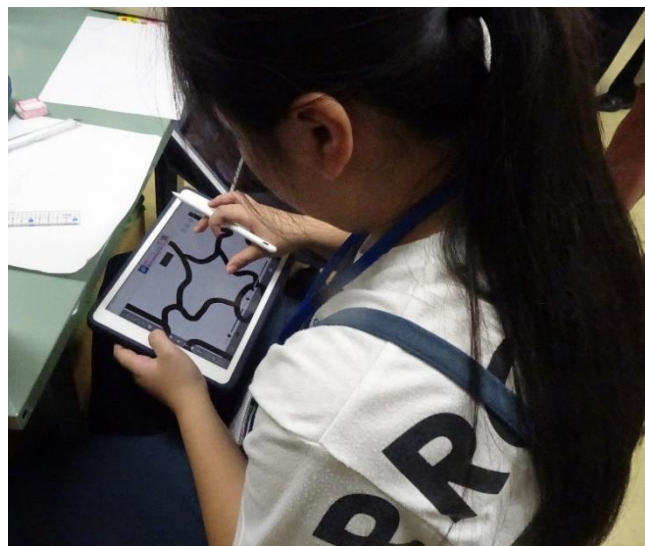


でした。色付けを工夫するようです。子どもたちは、それぞれの考えを聞いても思うようにそれぞれの良さが思いつかないようなので、図に示された案を会長の友成哲郎氏が、パソコンに読み込み、月と猫の模様を、レーザー彫刻機で形どってくださいました、また、幾何学模様の図をUVインクジェットプリンターでも作成してくださいました。さらに、パズルは、友成工芸さんが依然手掛けた見本を見せてくださり、サバンナの図案をスキャナーで読み取り、次回までに加工できるようにして下さることになりました。



また、スマホ

スタンドの背面もパズルにするなど企画が膨らみました。当初デザイナーの関様は、子どもたちの企画を1つに絞り込む予定でしたが、それぞれ見本として作成してみるとこととなり、それぞれの企画書を持ち帰られ、より深められることになりました。時間が過ぎ、振り返りをしながら次回までに自分の案をより深めたい子は、家で次回12月14日までに、考えてくることになりました。次回が最後



で、商品化になる企画と実物を作る作業になる予定です。とても楽しみになってきました。

